

所で想定される出来事がイラストで表現されており、それを見ながら自分たちは運営委員としてどう対応するか話し合います。このワークショップを通して自分の意見を言い、いろいろな人たちと意見を交わすことで、「自分の地域でも話し合える」と実感することができます。「災害に強いのは話し合いのできる地域」、これに尽きると思います。

災害の備えは、話し合える関係性です。そして、そういった地域の取り組みの拠点となるのが、仙台では男女共同参画センターでした。

### 男女共同参画視点での 支援活動の場 「男女共同参画センター」

発災後、仙台市の地域防災計画には、男女共同参画の視点が明記されました。避難所運営の方針に、「女性の参画の必要性、多様なニーズや背景を持つ市民への配慮」が盛り込まれました。さらに、「男女共同参画推進センター内に女性支援センターを設置し、同センターを運営するせんだい男女共同参画財団と共に、被災女性のニーズの把握に努め、NPO団体等との連携を

図りながら、必要な対応を行う」と位置づけられたことにより、女性支援活動を速やかに始められるようになりました。避難所にも入って行きやすくなることでしょうか。

大規模災害時、男女共同参画の視点でどういった支援が必要か、などの情報を持つているのは男女共同参画センターです。例えば、仙台市と大田区、どちらかが災害にあった時に男女共同参画センター同士でお互いに支援できるといいなど考えています。日頃からのネットワークで全国のセンターから経験や知識に基づく情報発信・情報提供・アドバイスができるかもしれません。災害時に連携し、相互に支援するネットワーク機能を発揮することが男女共同参画センターの役割として大事ではないでしょうか。

### 仲間とつながることから 始まる女性たちの リーダーシップ

地域には、PTAや子ども会などで活躍している女性たちが大勢います。能力を持ち、人脈があり、活動している女性たち。そんな人たちを見つけて出して存在を可視化し、つながる機会を

作り、社会的に力が生かされるようにすることが男女共同参画センターの役割であり、仕事だと思っています。これからは、そのような仕掛けづくりをしていかなければいけないと思っています。

さらに見えてきたこととして、リーダーとは「付いて来い！」と先頭で旗を振る人だけではありません。脱落者（へたっている人）がいないかと、後ろから見守り、全体を気にかけることもリーダーシップだと思っています。「仲間や自分の大切な人を守るために、私に

は何かできるか」が動機となり、仲間とつながりながら活動していく。それが女性たちの新しいリーダー像だと思っています。

いろいろな人と話し合い、つながって、いつ災害があってもこの地域（エセナおた）には話し合いのできる関係があるから「大丈夫」と思える関係を、日頃から作っていくことが大切だと思っています。

\*講演録の内容について、講師の許可を得て一部表現をわかりやすく変更をしています。

## 災害時、多様性に配慮した 支援が必要

災害時に自分の身を守るためには

**危険を察知する力  
情報を受け取る力  
適切な行動を取る力**

が必要です。しかし、身体・情報・対応にハンディを持つ人(要配慮者)には個別の支援が必要となります。一例として以下のような人たちが当てはまります。

- ・障がい者(視覚、聴覚、知的、肢体不自由)
- ・子ども(乳幼児、小学生、中高生)
- ・女性 ・妊産婦 ・高齢者
- ・既往症を持つ人(認知症、アレルギー、糖尿病、その他疾患)
- ・外国人(居住者、旅行者) ・性的マイノリティ

具体的な支援を考える場合、例えば同じ障がいであっても、各人によって個性やセクシャリティが異なります。またその時の状況や体調によって必要な支援は様々ではありません。

まずは当事者の意見を聴くことが大切であり、その内容を元にして、さまざまな角度から複合的に支援すること、状況別に支援の方向性を考え実践していくことが求められます。

**そのためにも、住民代表や支援の責任者には、  
当事者やその支援者の参画が不可欠となります。**

2014年11月15日エセナおた主催  
「防災リーダー養成基礎講座」(講師:浅野幸子)テキストより抜粋